



# 川東小だより

第6号  
令和3年10月15日  
新発田市立  
川東小学校

## マラソン大会の経験を活かす

校長 岡崎 功一

マラソン大会、当日の朝のことです。玄関前で子どもたちに挨拶をしていると、「今日は、マラソン大会ありますか。」と、にこにこしながら話しかけてくる子がいました。「やる予定です。」と言葉を返すと、更ににこにこしながら教室に向かって階段を上がっていきました。一方、「先生、さっきバス停のところいたら雨があたってきました。」と、訴えるように話しかけてきた子がいました。その言葉の裏にある気持ちを察しながらも、「大丈夫、普段通りでいいよ。」という話をしました。走るのが好き、得意な子どもがいる一方で、走ることに苦手意識をもつ子どももいます。私が、学級担任をしていた頃も、いつもこのような子どもたちの反応を経験してきました。

10月1日の全校朝会で、次のような話をしました。

### <要約>

今、業間タイムや体育の時間に一生懸命に練習をしていますね。マラソンが得意な人も、苦手な人もせっかく取り組むので、頑張っただけでよかったと思える取り組みにしましょう。3つのお話をします。

レース前は、自分にあつめあてをもつ。自分のペースをつかむ。健康管理に気をつける。

レースでは、自分のペースを意識する。調子が悪いときでも諦めずにペースを調節しながら走る。  
あきらめない。

レース後は、結果についてだけでなく、練習についても振り返りをする。

終わってから振り返って、自分の成長や頑張りを感ずることのできるマラソン大会にしましょう。本番まで、まだ期間があります。コツコツ取り組んでいきましょう。

子どもたちも、それぞれ、「何位に入る。」「〇分台で走る。」「記録を更新する。」等、めあてを立てて取り組んできました。

そして、本番。「颯爽と姿勢よく走っていく子ども」「リズムよく呼吸をして走っていく子ども」「苦しそうな表情を浮かべながらも走っていく子ども」、走り方は、それぞれでしたが、その表情から子どもたち一人一人の頑張りが伝わってきました。子どもたちが、業間タイムや体育の時間に一生懸命に練習に取り組んできたからこそ、見ている人に感動を与える走りができたと言えるでしょう。

マラソン大会は、つい順位や記録の更新について評価しがちですが、当日までの練習を含め、がんばったことを褒め、認めることが、子どもの成長に大いにつながるものと考えます。子どもたちにも、閉会式でも、当日の結果だけではなく、本番まで自分がどれだけがんばって練習したのかについても振り返ってほしいことを話しました。

既にご家庭でも、マラソン大会について子どもたちとも話題にされたと思います。今後もマラソン大会に限らず、いろいろな取組や教育活動があります。結果だけではなく、そのがんばりや努力についても褒め、認めていただきたいと思います。そのことでお子さんの自己肯定感が上がり、次の活動につながってきます。今回、残念ながらマラソン大会に参加できなかったお子さんもいます。しかし、友達の走る姿を見て、考えることもあったと思います。そのことを今後の活動に生かしていければ、貴重な体験となるはずですよ。

最後になりますが、今回のマラソン大会は、期日を延期しての実施とさせていただきますが、多くの保護者の皆様からご声援をいただきました。ありがとうございました。今後とも、川東小学校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。